



～夢に向かって、気づき・考え・行動する 児童の育成～

道徳で子供たちの心を耕す

本校は長年「道徳教育」の研究を行っています。

道徳の時間を中心に、全教育活動の中で、子供たちの心を育てようと様々な取組をしています。

10月29日に、3年生で道徳の研究授業を行いました。

研究授業とは、指導者が計画した授業を実践に移し、それを全職員で観察し、授業後に指導の様子や児童の変容を基に、より良い道徳の授業づくりについて研究を行っていくものです。

以下は、その時の授業の概要です。

主題：一生懸命生きること

教材：「ぼくの生まれた日ードラえもんー」

教材のあらまし：怠けて叱られたのび太は、自分は拾われた子だとドラえもんに訴えた。そこで、ドラえもんはのび太を、のび太が生まれた日に連れていく。のび太は両親が、自分が生まれたことを心から喜んでいることを知った。また、そこで、名前の由来や両親の願い・思いを聞き、自分の今からの生活をどうすべきかを考え始めた。

授業の流れ：①お話を読んで、両親に叱られたのび太の気持ちを考える。

②のび太が生まれた日に行って耳にした、両親の願いをおさえる。

③「ぼくの将来をあんなに楽しみにしていたのか」とつぶやいたのび太の気持ちを考える。

④のび太はなぜいろいろなことを頑張ろうと思ったのか考える。

⑤3年生の児童はタイムマシンで自分が生まれた日には戻れないので、児童が生まれた日の両親の思いを、それぞれの保護者に準備してもらった手紙で知る。

⑥家族とともに映ったスライドショーを見て、今後、自分の命をどのように輝かせるか考える。

子供たちは、最初はドラえもんの「のび太のお話」として捉えていたのですが、途中からは自分事として考えていったようです。

おうちの人からの手紙で、自分が生まれた時の両親の思いや願い、自分の名前に込められた思いなどを知り、子供たちは、涙を浮かべながら、何度も何度も手紙を読み返していました。

そのあと、笑顔の家族とともに映っている自分が小さい頃のスライドショーを見ると、家族への思いが高まり、涙があふれるとともに、周りの友達も自分と同じように大切にされてきたのだということに気付いていきました。

最後には、これから自分はどのように生きていくかを考え、涙で声にならないながらも、一生懸命自分の決意を発表する児童の姿がありました。 ～本校は道徳教育で子供たちの心を耕しています～

